

介護技術習得過程におけるDVDの活用方法の検討

松永 美輝恵*・松本 百合美

地域福祉学科

(2008年11月12日受理)

介護福祉士養成校A校B学科で作成した介護技術演習のデモンストレーション用DVDを、学生のグループ練習時に活用すること、またその使用法の違いにより、より効果的な演習方法を検討することを本研究は目的としている。従来、学生には印刷教材としてマニュアルを個別配布し、教員がその場で行うデモンストレーションを見せた上で、印刷教材を見ながら、グループごとに練習を行わせてきた。これに加えて今年度は、デモンストレーション用にDVDを作成し、段階的に取り入れてきた。その結果、デモ終了後の学生の練習時、①印刷教材のみ、②印刷教材と3テレビモニターからの一斉に流される映像教材、③印刷教材とグループごとに自由に操作できるポータブルDVDプレーヤーによる映像教材の3つのパターンで演習を行うことになった。そこで、この3つのパターンの演習方法が学生にとって、どのような違いがあったのかを質問紙調査により比較した。その結果、“演習の取り組みやすさ”、“教材の見やすさ”、“具体的手技のわかりやすさ”、“手順のわかりやすさ”の各項目において、③印刷教材とグループごとに自由に操作できるポータブルDVDプレーヤーによる映像教材を使用することが学習効果の高いことがわかった。

1 はじめに

「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直しに関する検討会」報告書(2006)より“これからの介護福祉の人材養成における目標”12項目が示され、これに基づく介護福祉士養成を行うための新しいカリキュラムが2009年度より施行される。この新カリキュラムでは、2年課程の介護福祉士養成校においては、現行1650時間の教育時間が1800時間と大幅に増加し、そのうち介護系科目は900時間(介護概論、介護技術、形態別介護技術、介護実習指導、介護実習の総時間数)から1260時間(領域「介護」の時間数)となる。現在、介護技術の演習において、50名程度の1年生に対し、教員が3～4名で指導を行っており、教員1名あたり12名～16名を担当している。また学生は1ベッドにつき3～4名おり、教員1名あたり3～5ベッドを受け持っている。しかし、新カリキュラムでは、介護技術(「生活支援技術」に科目名変更予定)の他に介護教員の担当する時間数が大幅に増加し、現在の質の確保ができるかが喫緊の課題である。そこで、新カリキュラムにおいても現在と同様、あるいはそれ以上の質を確保するためのより効率的かつ効果的な授業展開の工夫として、昨年度から教員が試行的に作成した演習項目ごとのDVDをデモンストレーションに活用してきた。

本研究では、今年度前期の介護技術演習で、デモンストレーション終了後の学生グループごとの練習時に、従来のように印刷教材のみを使用した場合と、印刷教材に映像教材を加えて使用すること、また使用法の違いにより介護技術習得の過程で理解度に違いあるかを調査し、効果的な介護技術の演習方法を検討することを目的としている。

なお、先行研究では、看護教育において自主学習時間にビデオ教材を使用したもの¹⁾、学生自身の看護技術を撮影しグループで相互評価するもの^{2,3)}などあるが、介護技術演習において演習中にDVDを使用した取り組みを発表したものはみあたらない。

2 研究方法

2.1 対象

A校B学科(介護福祉士養成2年課程)1年生(2008年度入学生)48名を対象に調査を実施した。

2.2 調査方法

2.2.1 DVD教材について

DVD教材は、印刷教材を基に作成した。介護技術の原理原則の理解を促し、ポイントを見やすくするために、必要に応じて様々な角度から技術が見えるよう

*連絡先: 松永美輝恵 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

表1 演習項目と練習時の映像教材 (DVD) 活用法の対照

印刷教材のみの演習項目	印刷教材と映像教材を全体に流した演習項目	印刷教材とグループごとに映像教材を活用した演習項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドメイキング ・体位と安楽・褥瘡 ・シーツ交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・寝衣交換 ・排泄の介護 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレの介護

画面を切り替える工夫をしている。演習項目により差はあるが、概ね視聴時間は20分程度である。ただし、DVD教材には音声等が含まれておらず、デモストレーション時に使用する際は、DVD教材にあわせて教員が解説を加えるため、視聴時間は20分を越えることが多い。

2.2.2 演習項目と練習時のDVD使用法について(表1)

演習項目ごとに、練習は、①印刷教材のみの場合、②印刷教材と3箇所のテレビモニターからの一斉に流される映像教材の場合、③印刷教材とグループ(ベッド)ごとに自由に操作できるポータブルDVDプレーヤーによる映像教材の場合の3パターン行った。

2.2.3 質問紙調査

日時：平成20年8月4日

方法：質問紙調査の趣旨、進め方、内容について説明した後、自記式留置法で行った。内容は、①印刷教材のみの場合、②印刷教材と3箇所のテレビモニターから一斉に流される映像教材の場合、③印刷教材とグループ(ベッド)ごとに自由に操作できるポータブルDVDプレーヤーによる映像教材の場合の3パターンの練習について、「手順のわかりやすさ」、「具体的な手技のわかりやすさ」、「教材の見やすさ」、「演習の取り組みやすさ」を訊いた。なお、各項目につき「大変わかりやすい」から「全くわからない」の5件法で訊いた。

分析方法：分析にはExcelを用いて単純集計を行った。

2.3 倫理的配慮

調査への参加は任意であり、参加または不参加により不利益を受けないこと、調査が成績評価に一切関係しないことを口頭で説明し、同意を得て実施し、質問紙の提出をもって同意を得たものとみなした。また、今回の研究において介護技術演習をより効果的かつ効率的に行うために、段階的にDVDの映像教材を取り入れたものであり、実験として授業を展開しているものではない。

3 結果

48名より同意を得た。回収率は100% (有効回答48名中48名、100%)であった。

3.1 印刷教材のみを使用した場合(図1)

3.1.1 手順のわかりやすさについて

“大変わかりやすい”と回答した者48名中5名(10.4%)、“まあまあよかった”は24名(50.0%)、“どちらともいえない”は13名(27.1%)、“あまりわからなかった”は6名(12.5%)、“全くわからなかった”は0名(0.0%)であった。

3.1.2 具体的手技のわかりやすさについて

“大変わかりやすい”と回答した者48名中3名(6.3%)、“まあまあよかった”は22名(45.8%)、“どちらともいえない”は12名(25.0%)、“あまりわからなかった”は11名(22.9%)、“全くわからなかった”は0名(0.0%)であった。

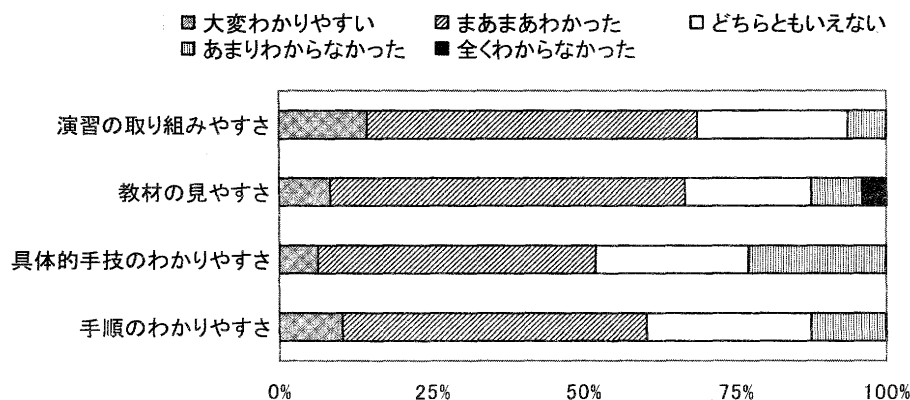


図1 印刷教材のみを使用した場合

3.1.3 教材の見やすさについて

“大変みやすい”と回答した者は48名中4名(8.3%)、“まあまあみやすい”は28名(58.3%)、“どちらともいえない”は10名(20.8%)、“あまりみやすすくない”は4名(8.3%)、“全くみやすすくない”は2名(4.2%)であった。

3.1.4 練習の取り組みやすさについて

“大変取り組みやすい”と回答した者は48名中7名(14.6%)、“まあまあ取り組みやすい”は26名(54.2%)、“どちらともいえない”は12名(25.0%)“あまり取り組みやすすくない”は3名(6.3%)、“全く取り組みやすすくない”は0名(0.0%)であった。

3.2 印刷教材と3箇所のテレビモニターから一斉に映像教材を流した場合(図2)

3.2.1 手順のわかりやすさについて

“大変わかりやすい”と回答した者は48名中20名(41.7%)、“まあまあわかった”は23名(47.9%)、“どちらともいえない”は4名(8.3%)、“あまりわからなかった”は1名(2.1%)、“全くわからなかった”は0名(0.0%)であった。

“大変わかりやすい”と回答した者は48名中13名(27.1%)、“まあまあわかった”は20名(41.7%)、“どちらともいえない”は11名(22.9%)、“あまりわからなかった”は4名(8.3%)、“全くわからなかった”は0名(0.0%)であった。

3.2.2 具体的手技のわかりやすさについて

“大変みやすい”と回答した者は48名中14名(29.2%)、“まあまあみやすい”は27名(56.3%)、“どちらともいえない”は6名(12.5%)、“あまりみやすすくない”は1名(2.1%)、“全くみやすすくない”は0名(0.0%)であった。

3.2.3 教材の見やすさについて

“大変取り組みやすい”と回答した者は48名中16名(33.3%)、“まあまあ取り組みやすい”は25名(52.1%)、“どちらともいえない”は6名(12.5%)“あまり取り組みやすすくない”は1名(2.1%)、“全く取り組みやすすくない”は0名(0.0%)であった。

3.2.4 練習の取り組みやすさについて

“大変取り組みやすい”と回答した者は48名中16名(33.3%)、“まあまあ取り組みやすい”は25名(52.1%)、“どちらともいえない”は6名(12.5%)“あまり取り組みやすすくない”は1名(2.1%)、“全く取り組みやすすくない”は0名(0.0%)であった。

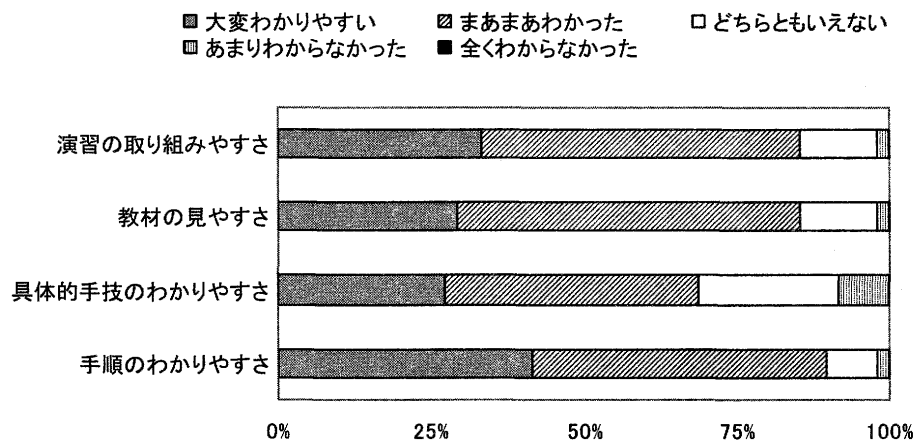


図2 印刷教材とテレビモニターから一斉に映像教材を流した場合

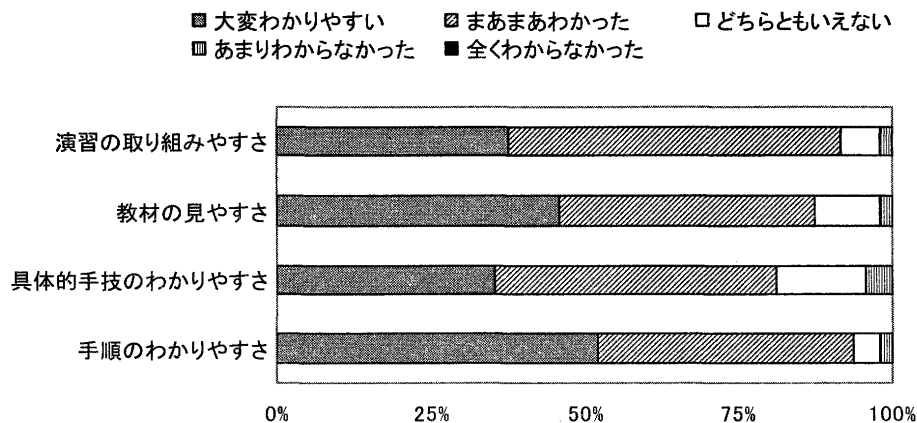


図3 印刷教材とグループで自由に操作してDVDを使用した場合

3.3 印刷教材とグループ（ベッド）ごとに自由に操作できるポータブルDVDプレーヤーによる映像教材を使用した場合（図3）

3.3.1 手順のわかりやすさについて

“大変わかりやすい”と回答した者は48名中25名（52.1%）、“まあまあわかった”は20名（41.7%）、“どちらともいえない”は2名（4.2%）、“あまりわからなかった”は1名（2.1%）、“全くわからなかった”は0名（0.0%）であった。

3.3.2 具体的手技のわかりやすさについて

“大変わかりやすい”と回答した者は48名中17名（35.4%）、“まあまあわかった”は22名（45.8%）、“どちらともいえない”は7名（14.6%）、“あまりわからなかった”は2名（4.2%）、“全くわからなかった”は0名（0.0%）であった。

3.3.3 教材の見やすさについて

“大変みやすい”と回答した者は48名中22名（45.8%）、“まあまあみやすい”は20名（41.7%）、“どちらともいえない”は5名（10.4%）、“あまりみやすすくない”は1名（2.1%）、“全くみやすすくない”は0名（0.0%）であった。

3.3.4 練習の取り組みやすさについて

“大変取り組みやすい”と回答した者は48名中18名（37.5%）、“まあまあ取り組みやすい”は26名（54.2%）、“どちらともいえない”は3名（6.3%）“あまり取り組みやすすくない”は1名（2.1%）、“全く取り組みやすすくない”は0名（0.0%）であった。

4 考察

4.1 印刷教材と併せてDVD教材を使用することの効果について

従来、個別に印刷教材を配布してきた。今回、DVD教材を導入し、その使用法により練習の理解度に違いがあるかを検討する目的で調査を行った。

学生が個別に印刷教材を見ながら行った場合と印刷教材と3箇所のテレビモニターから一斉に映像教材を流した場合、印刷教材とグループ（ベッド）ごとに自由に操作できるポータブルDVDプレーヤーによる映像教材を使用した場合の3パターンを比較すると、DVD教材を使用した2パターンは、印刷教材のみ使用した練習に比べ、すべての質問項目でわかりやすい、取り組みやすいという回答が多い。これについては、自由記述欄の「DVDが見られるようになって、手順がわかりやすくなった。」という回答からもわかるように、映像が加わることで、介護技術をより視覚的に捉えやすくなり、印刷教材に示された手順等がわかりやすくなったと考えられる。また、「マニュアルだけでな

く映像があるのでわかりやすい」と回答があり、手順と根拠及び留意点を示した印刷教材と介護技術の一連の流れが理解できるDVD教材を併せて活用することで、従来に比べ、より介護技術の理解がしやすくなったと考えた。

4.2 教材内容の検討

4.2.1 印刷教材の内容の検討

印刷教材のみを使用した場合で注目すべき点は、教材の見やすさの質問項目で“全くわからなかった”に回答があり、さらに自由記述でも「マニュアル（印刷教材）の説明がわかりにくいので後からみても理解しにくい」とあった。現在、B学科で使用する印刷教材は、介護技術の手順、根拠及び留意点を記載している。介護技術や看護技術を習得するために一般的に使用されているマニュアル¹⁴⁾とB学科が学生に提供する印刷教材を比べた時、手順や根拠および留意点の書き方は大きく変わらないように見える。しかし、B学科の印刷教材はこれらに比べ、写真やイラスト資料が圧倒的に不足しているのがわかる。今回作製したDVDの画像を利用するなどして、より見やすい印刷教材を作成する必要があると考えた。

4.2.2 DVD教材の内容の検討

DVD教材については、練習で使用する時によりわかりやすくするために、「DVDに説明の音声を入れて欲しい」という要望が自由回答にあった。石綿¹⁾の報告では音声入り（既成）のビデオを用いて学習をさせた結果、技術習得や理解に有効であったと述べている。このことから、今回作成したDVD教材においても音声を入れ、より手技やポイントを理解しやすいDVD教材を作成し、授業外での学生の自己学習にも十分に役立つものとする必要がある。

4.2.3 DVDによるデモンストレーションの効果

今回は学生が実際の練習にDVDを導入し、学生の理解や取組に効果があるという結果が得られたものであるが、それ以外にも、昨年度から行っているDVDによるデモンストレーションにより、教員が自分の行うデモンストレーションや技術を振り返り見ることで、学生にわかりやすい教授法の再考に役立っている。また、デモンストレーションに要する時間が短縮したことから、学生が授業時間内に練習する時間を増加させることができた。学生の疑問やうまくいかない技法について、教員は学生に個別に対応する時間的な余裕が生まれ、きめの細かい指導に役立っている。

5 まとめ及び今後の課題

今回は、従来から使用し学生各自に配布する印刷教材

とDVD教材を使用した練習について検討したが、印刷教材だけでなくDVD教材を併せて使用し、さらにグループで自由に操作できるポータブルDVDプレーヤーの使用が、よりわかりやすくなったことがわかった。

今後は、印刷教材に原理原則やポイントとなる点については写真等を使用することやDVD教材にも説明の音声を含めることを検討し、より効率的で効果的な介護技術演習を展開できるようにしたい。

今回の調査では、検討を行う上で十分な回数の演習を行っていないことや演習項目が異なるものを比較した結果を考察したものであるため、十分な検討を行うには限界があった。今後も継続的に教材の使用方法や内容を検討し、その効果を図る必要がある。

参考文献

- 1) 石綿啓子：基礎看護技術演習における自主学習時間の活用方法－ビデオ学習をした効果と改善点－.高崎健康福祉大学総合福祉研究所紀要,3 (2) ,31 - 44,2006
- 2) 服部恵子,藤尾麻衣子・小元まき子他3名：看護技術の習得過程におけるビデオ活用の効果.順天堂大学医療看護学部医療看護研究,2,110 - 115,2006
- 3) 木村あい：ロールプレイ実施による介護技術の授業展開－ビデオのフィードバック効果を利用した学習効果－.神戸女子大学文学部紀要,41巻,113 - 123,2008
- 4) 小笠原祐次：介護技術指導マニュアル,1-7,中央法規出版,2004
- 5) 山崎絆,町田市民病院看護科：看護基準書・手順書.メデイカ出版,2005
- 6) 滝波順子：セルフチェック基礎介護技術.中央法規出版,2005
- 7) 住居広士他：見てよくわかるリハビリテーション介護技術.一橋出版,2001